

## R6年度 八幡商業高校 学校評価の分析

(次年度に向けての課題、取組み等)

### ○総合評価が「B評価」であるもの

(質問事項 1)

教員：私は、学校経営方針を理解し、魅力ある学校づくりに参画している (A)

生徒：学校全体の目標を知っている (C)

保護者：学校は、教育目標や重点的な取組みをわかりやすく伝えている (A)

- ◆ 生徒の肯定的な回答が47.6%とかなり低いものとなった。教員が学校経営方針や目指す生徒像を理解していても生徒にうまく伝わっていないと考えられる。様々な教育活動の場面で学校の目標や目指す生徒像をはっきりと生徒に示していく必要がある。

(質問事項 4)

教員：わかる授業・深く考えさせる授業に向けて授業改善や計画的な授業の展開を行っている (A)

生徒：授業が工夫されていてわかりやすい (B)

保護者：子どもは、授業が工夫されていてわかりやすいと言っている (C)

- ◆ 肯定的な回答が教員100%、生徒75.4%、保護者58.4%とかなり乖離がある項目である。教員の自己満足ではなく、生徒が「わかりやすい」と感じる授業を教員は創っていかなければならない。同時に1人1台端末の完成年度となったが、ICT機器を活用しながら「わかる授業・深く考えさせる授業」にむけてさらに授業改善を行う。

(質問事項19)

教員：ごみの減量や分別、節電や節水を心掛け、SDGsの環境問題の解決に向け、意識の向上に努めている (B)

生徒：ゴミの減量や分別、節電や節水をこころがけている (A)

保護者：子どもは、ゴミの減量や分別、節電や節水をこころがけ、環境に配慮している (B)

- ◆ 昨年度と同様の結果である。生徒は、ゴミの分別・節電などに心がけていると回答し、一方、保護者、教員からは、まだまだ改善の余地があると読み取れる。全校あげて環境問題への関心を高め、改善が目に見えるようにしていきたい。次年度には、生徒会の美化委員会にも呼びかけ、生徒発信の環境問題への取り組みも実施すべきと考えている。